



Weekly Market Report

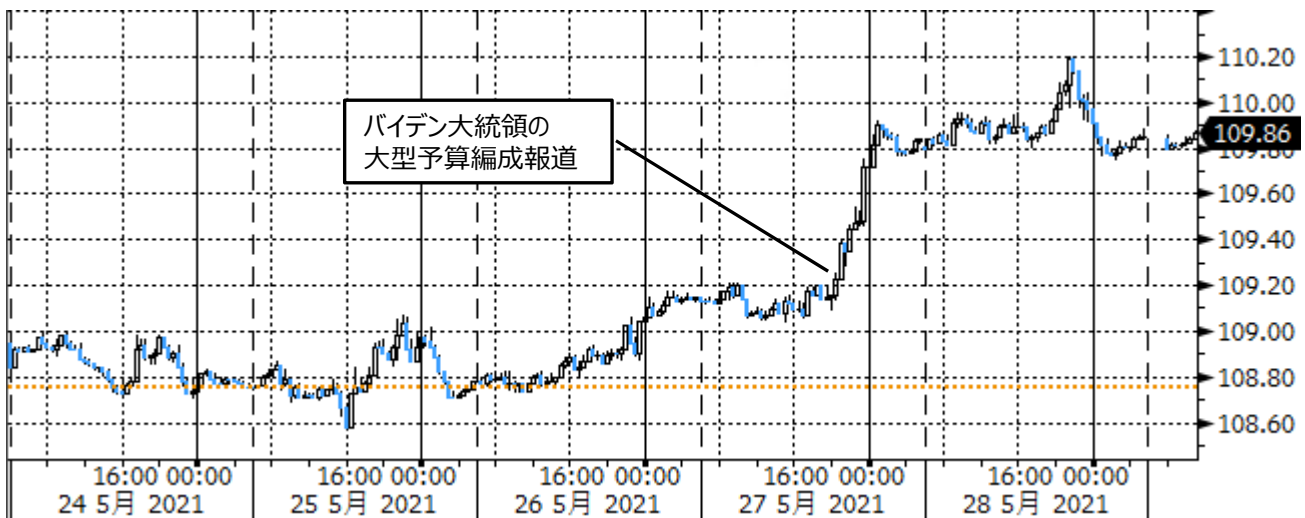
May 31, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

米経済指標の結果次第では早期テーパリング期待の再燃も

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は週後半に掛けてドル買い・円売りが進み、一時110円台までドル買いが進む展開。週初は米製造業・非製造業PMIの好結果をうけドル高が進み108円台後半で開始したが、米10年債利回りが1.60%を下回ったこともあり、ドル円相場は週半にかけて横ばいに推移した。週後半ではバイデン大統領の大型予算編成報道（6兆ドル）により、米10年債利回りは1.60%台に戻り、ドル円相場は109円台後半にまで上昇。週末には米新規失業保険、コアPCEといった経済指標の結果が良好であったことからドル買いが進み、一時110円台に到達するも、その後は売り買いが交錯し109円台後半で越週。

今週は月初の重要な米経済指標が多く発表される予定だが、注目はすでに再来週のFOMCに向けられ、ドル円相場は上値・下値が重い展開と予想。米経済指標の結果次第では、早期テーパリング期待が再燃され相場の急騰に注意が必要である。（市場営業部/三原）

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
6/1(火)	(欧州) 消費者物価指数	1.9%
6/1(火)	(米国) ISM製造業景況指数	61
6/3(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	39.5万件
6/3(木)	(米国) ISM非製造業景況指数	63
6/3(木)	(米国) 非農業部門雇用者数変化	65万件

USD/JPY (5年間)



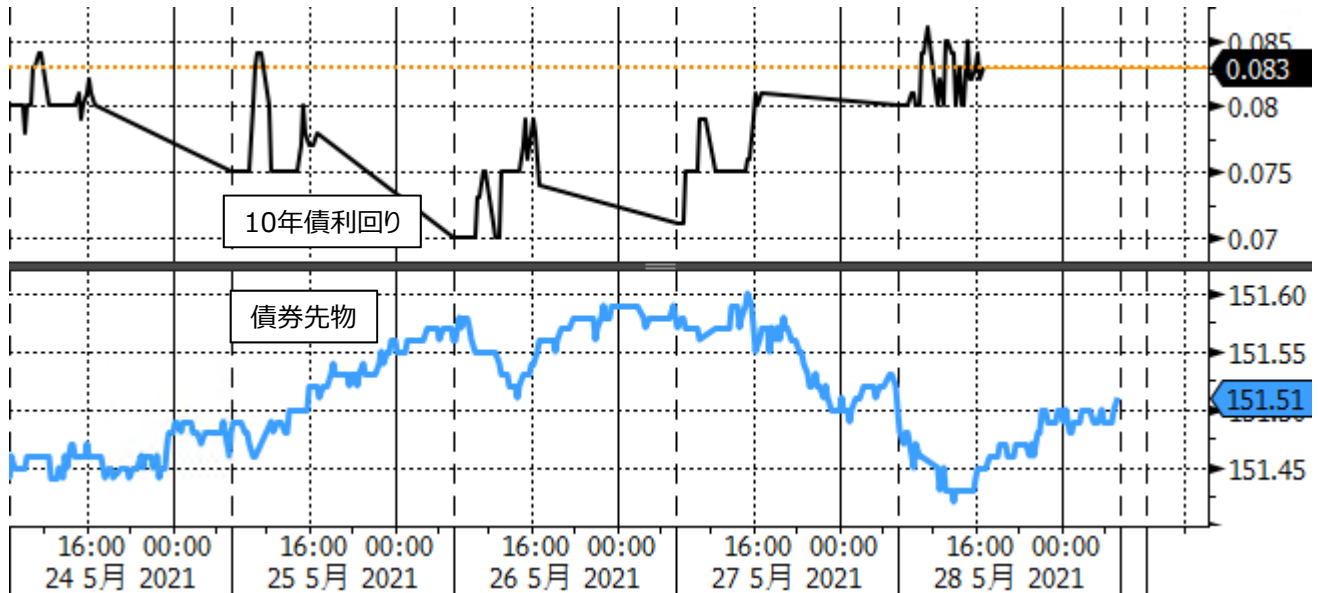
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	108.50 - 111.00	今週は米主要経済指標目白押しの中、引き続きFRB当局者の発言にも注視しつつ、再び110円台を試す展開か。
山下航平	108.50 - 111.50	経済回復への遅れから円安が進行する中、米雇用統計の結果次第では早期テーパリング議論が再燃する可能性も。

2. 円金利相場概況

引き続き国内材料乏しく、米主要指標に絡む米長期金利動向に左右される展開か

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

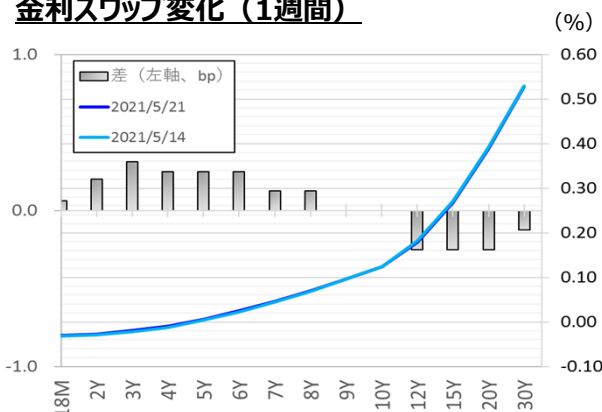


(出所) Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は0.070-0.090%のレンジ推移となり、海外金利が膠着する中、引き続き狭いレンジでもみ合う展開となった。週前半は緊急事態宣言延長を見込み中、先物買い先行となった。26日は日銀の鈴木人司審議委員が3月政策点検後の長期金利の停滞に言及したことにより、若干先物売りでの反応に留まった。27日は、今回から1,000億円増額となり注目されていた40年債入札の結果（最高落札利回り0.71%/応札倍率2.80倍）は応札倍率が前回と同じとなり、しっかりとした需要を確認。週後半は米バイデン政権によるインフラ投資計画公表に絡む米長期金利上昇や翌週3日の10年債入札を意識した調整売りが入り、10年国債金利は上昇した。今週は6月の日銀オペ計画公表予定であり、緊急事態宣言下の減額可能性は低いものの、減額有無には注目。米国は雇用統計等の主要経済指標発表があり、米長期金利動向に円金利は引き続き左右されるだろう。今週は6月3日に10年債入札予定。（市場営業部/福永）

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.06% - 0.10%	今週の円金利は、本日発表の日銀6月オペ計画で減額可能性低いことから、週末の米雇用統計に向けもみあう展開を予想。
廣瀬友絵	0.07% - 0.10%	週末の米雇用統計の発表を控え、積極的な動きも見込みづらく、狭いレンジで方向感を探る展開か。

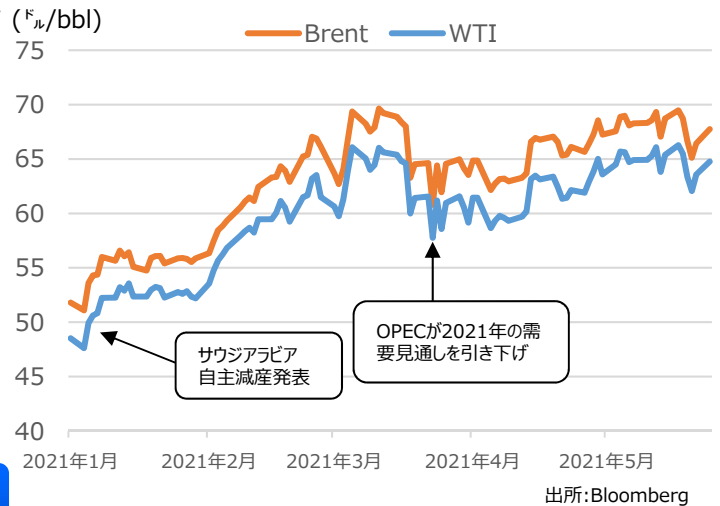
トピックス

～原油相場アップデート～

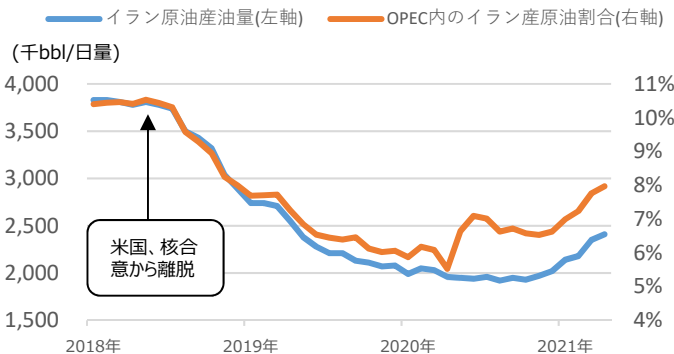
2021年、年明けからの原油相場の振り返り

・年明けの1月初旬は、減産幅の調整で難航が続いていたOPECプラスの総会で、サウジアラビアが日量100万bblの自主減産を行うと発表したことを受け、1日で約5%程度上昇する日も見られ、原油相場にとっては好調なスタート。
 ・その後は米中の景気回復期待やOPECプラスの減産体制の継続、ワクチン普及期待などを背景に3月上旬までは堅調に推移。Brent価格で70ドル/bbl間近まで上昇した。2月半ばに米国に記録的な大寒波が襲ったことで、米テキサス州での原油生産が一時停止したことも追い風となった。
 ・しかし、好調であった原油相場も3月中旬からは上値が重たい展開となった。3月中旬にはOPECが月報で原油需要の見通しを引き下げたことや欧州での新型コロナウイルス感染再拡大を材料に下落。その後も石油消費国第3位であるインドでの感染者数の急増や、米国とイランの核合意交渉の進展が重しとなり、現在ではBrent価格は60ドル台半ばでの推移となっている。(図1)

【図1】2021年、年明けからの原油価格の推移



【図2】イラン産原油、産油量の推移



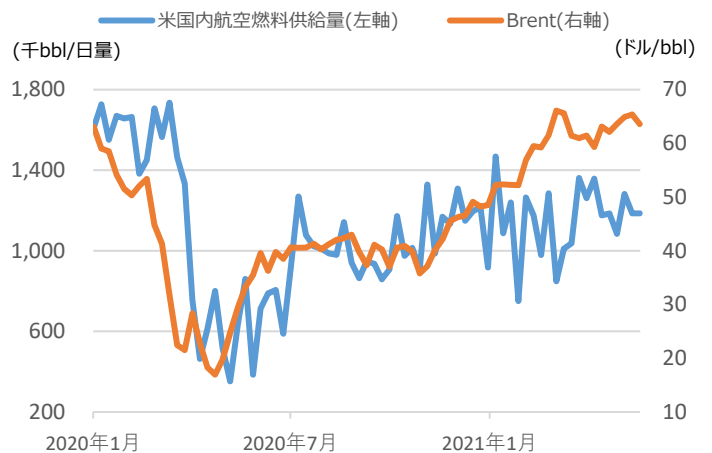
イラン核合意の原油市場への影響

・上述した米国とイランの核合意交渉は、足元の原油供給面での一大トピックとなっている。米国はトランプ大統領時代に核合意から離脱、対イラン制裁の一部を再開し、イラン産原油の禁輸を各国に命じていた。一方、現在の大統領であるバイデン氏は核合意への復帰を選挙時の公約に掲げており、米国が核合意へ復帰することで、イラン産原油も市場へ出回るようになる。その結果、現在の需給バランスが崩れ、原油価格の下押し圧力となることが考えられる。(執筆時点では復帰交渉中。)
 ・イラン政府関係者によると、交渉中の現在でも増産に向けて油田再開の準備をしており、イランは最短3カ月で日量400万bblの生産水準に戻る可能性があると言われている。
 ・現在の生産水準からは日量100万bbl以上増産される形となり、原油価格の上値を抑える重石となるだろう。(図2)

米国航空需要の回復

・一方、需要面でのトピックとして米国での航空需要の回復が挙げられ、こちらは原油価格上昇の追い風になると考えられている。米国では1回以上新型コロナワクチンを接種した人の数が全人口の半数を超え、人の移動も徐々に増えてきている。
 ・米国運輸保安局によると、5月16日に米国内の空港で検査を受けて搭乗した人の数が185万人を超え、パンデミック以降最高を記録。昨年同日は25.4万人であったため、その数から見ると大幅な回復である。また、パンデミック前の2019年(262万人)と比較しても約70%まで回復してきている。
 ・それに伴い米国における航空燃料(ジェット燃料)の需要も回復傾向にあり、その供給量も増加している。(図3) 石油の総需要に占めるジェット燃料の割合は大きくはないものの、ジェット燃料需要の回復は、人の往来や貨物の往来が増加していることを意味するため、これからの石油消費の増加が期待できる。
 ・以上のように原油価格には引き続き上昇要因も下落要因もあるため、どちらに動いても不思議ではないが、OPECに増産余力があることや、その他、米国が早期のテーパリングを実施し、原油に対する投資資金が引き上げられる可能性を考えると、全体的に上値が重い展開が続くと考えられる。(市場営業部：塚田)

【図3】米国内の航空燃料供給量



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会